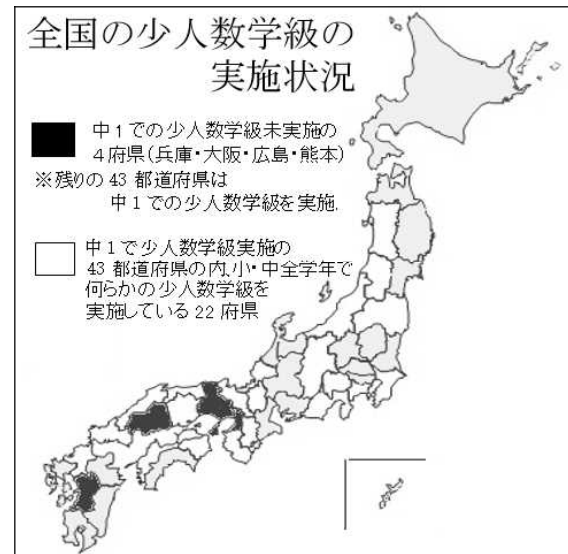


kokyosotsushin  
**高教組通信No.8 知事選特集⑦** 2017年6月26日  
 兵庫高教組書記局  
 HP:「兵庫高教組」検索 → 【HSTU】TOP of 兵庫県高等学校教職員組合（お問い合わせフォームもあります）

# 教育予算の増額、正規職員の確保で 公教育としての責任を

小中学校は統廃合で遠くなり、高校も近くに行けない、  
35人学級も小4で止まったまま、と教育軽視の現県政



近年、児童生徒数が大きく減少する中、各市町では小中学校の統廃合が進んでいます。元々あった近くの学校が無くなり、止む無く遠距離通学を強いられていることがよくあります。また公立高校も統廃合と、さらに学区が拡大されたことで、ここでも遠距離通学が見られます。

学校は、地域に根差したものであり、その地の文化を支える拠点であるべきですが、その役割を考慮せず、廃校をすすめるのは、地域活性化の観点からも逆効果と考えられます。

また、35人の少人数学級が全国的に広がる中、兵庫県は小4で止まったままです。『神戸新聞』(6月21日)によれば、現知事はこのままで変更は考えていません。

特別支援学校はできたけれど、施設設備が不十分でも  
「特に問題は聞いてない」と現県政

少子化が進んでいるなか、特別な支援の場を必要とする子どもは増え続け、小中学校の特別支援学級に在籍したり、特別支援学校に在籍したりする児童生徒数は過去最高を記録しています。特別支援学校の生徒数増加に対応するため、県立として2005年西はりま特別支援学校の設置から、以来東はりま特支、阪神昆陽特支、芦屋特支、姫路しらさぎ特支、西神戸高等特支と学びの場が作られています。

しかし、特別支援学校の「設置基準」を国として定めておらず、各校の施設や設備の設置状況は、その時々状況に左右されます。プールのない学校、運動場のない学校、は当たり前のようにあり、県は「特に問題は聞いてない」との態度をとっています。通常の小

中学校、高校では考えられない対応です。

## 非正規で成り立つ学校、子どもの教育や安全を軽視している現県政

兵庫県下の各学校の教員は、正規職員と非正規職員（臨時講師や時間講師など）で構成されていますが、その比率は全国の最低ラインにあります。近年、新規教員の採用数を増やしていますが、全教員のうち3分の1が臨時講師という学校がいくつかあります。

またある学校では寄宿舎教員（指導員）の正規職員は2割に過ぎず、昨年7月「津久井やまゆり園」で入所者に対する殺傷事件が起きましたが、いつ同様の事件が起こってもおかしくない恐怖に駆られています。特に障害のある児童生徒の入舎している学校では、2、3名の寄宿舎教員しか宿直しておらず、不測の事態が起こった時の対応は未知数です。

県議会で「県職員3割カット」と公言した現知事ですが、医療・福祉・そして教育の現場でも、現県政は子どもや保護者へのサービスと安心安全を低下させています。

県独自に中学、高校の35人学級を推進しさえすれば、臨時教職員をされている方の多くが正規職員として任用され、継続的にその学校での教育に携わることができます。

少人数学級は、子どもたちへの今以上にきめ細かい教育を可能とし、あわせて教職員の多忙化の軽減にも繋がり、正規職員の採用も増え雇用の安定にもなります。

## 民間委託の増大～公教育を安上がりで効率化をねらうのか(!?) 現県政

県は、行革の一環として、民間委託を推進しています。「民間」の事業者の目的はあくまで利潤の追求であり、それを目的とすることと、教育の場はなじみません。

また、2005年に特別支援学校のスクールバスで民間委託を導入した学校では、学校の教員と添乗員とが直接連絡を取り合うことが法律で禁止されているため、バス内での生徒に対する不適切な対応や事故の対応等でも、学校に正確に連絡されなかったり、担任の生徒に対する指導方針が添乗員に伝わらず、ヒヤットとする危険な事故が多々報告されています。

## 県「行革」で学校予算も削減し、でも巨額公共投資に進む現県政

県「行革」で学校予算が削減され続けてきました。一例として、エアコンは設置されているが、つけさせてもらえない、そのことで管理職とトラブルになっているところもあると聞きます。このことは現県政が、県「行革」で学校予算まで削ってきた結果にあります。

県「行革」で削りながら、一方では、巨額な公共投資を計画中です。現知事は、神戸空港と関空との間に海底トンネルの計画を公言し、40年前に計画された「播磨臨海地域道路」の建設を進めようとしています。2号線バイパスも中国道も山陽道も完成していなかった頃の計画で、播磨灘沿岸の工業地帯の北端を西進する約50Km、総工費5000億円の計画です。

教育予算を削って高規格道路建設を進める県政か、教育に予算をかける県政か。私たち学校現場で働く仲間で大いに語り合い、投票に行きましょう。



5. 2Kmlに660億円の東播磨南北道  
新たな慢性的な渋滞が発生